

平成18年度秋冬作芝関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成18年度秋冬作芝関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成19年7月19日(木)に門司港ホテルにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者9名、委託関係者33名ほか、計50名の参集を得て、除草剤16薬剤(20点)、生育調

節剤1薬剤(5点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成18年度 秋冬作芝関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類・継 続の別	試験担当場所 (数)	試験設計 [対象雑草; ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量mL>/m ² ・処理方法	判定	判定内容
1. B-3015乳90 ベンチカーブ 90% [クミイ化学工業]	コウライシ バ	適用性 新規	東日本G研 那須ナセー 鳥取園試 西日本G研 (4)	[一年生仔科雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.4, 0.6, 0.8mL<200-300>/m ² ・土壌処理 対) ポレロ90乳 0.6mL<200-300>/m ²	継	(継) 効果・被害の確認
2. BES-001顆粒水和 オートスルフロメチルナトリウム 塩 1.25% イトキシスフロ 12.5% [ハ・イェル クロップ サイエ ンス]	コウライシ バ	適用性 継続	東日本G研 埼玉サジアム2002 新中国G研 西日本G研 (4)	[広葉雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.1, 0.15, 0.2g<200-300>/m ² ・土壌処理 ・展着剤不要 対) インブーRDF 0.03g<200-300>/m ²	実・ 継	(実) [(コウライシバ、ノシバ) 一年生広葉 雑草] ・芝生育期(秋) 雑草発生前 ・0.1~0.2g<200-300mL>/m ² ・土壌処理 (継) ・多年生広葉雑草に対する効果の 確認 ・倍量薬害試験での確認 ・連用試験での確認 ・実証試験での確認
	ノシバ	適用性 継続	グランディ那須GC36 南長野GC 新中国G研 西日本G研 (4)	[広葉雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.1, 0.15, 0.2g<200-300>/m ² ・土壌処理 ・展着剤不要 対) インブーRDF 0.03g<200-300>/m ²		
3. BES-002フロアブル オキサジクロメキン 15% オキサジアリギル 17% [ハ・イェル クロップ サイエ ンス]	コウライシ バ	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	[倍量薬害] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.2mL<200>/m ² , 0.4mL<400>/m ² , 0.8mL<800>/m ² ・土壌処理 ・展着剤不要	実・ 継	(実) [(コウライシバ、ノシバ) 一年生雑草] ・芝生育期(秋) 雑草発生前 ・0.1~0.2mL<200-300mL>/m ² ・土壌処理 (継) ・連用試験での確認 ・実証試験での確認
	ノシバ	作用性 新規	グランディ那須GC36 新中国G研 (2)	[倍量薬害] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.2mL<200>/m ² , 0.4mL<400>/m ² , 0.8mL<800>/m ² ・土壌処理 ・展着剤不要		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 〔対象雑草; ねらい〕 ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
BES-002707アブル	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 植調埼玉 浜松シサイド GC (3)	〔一年生雑草〕 ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.1, 0.15, 0.2mL<200-300>/m ² ・ 土壌処理 ・ 展着剤不要 対) ウェイップ 0.5g<200-300>/m ²		
	ノシハ	適用性 継続	東日本G研 植調埼玉 南長野GC (3)	〔一年生雑草〕 ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.1, 0.15, 0.2mL<200-300>/m ² ・ 土壌処理 ・ 展着剤不要 対) ウェイップ 0.5g<200-300>/m ²		
4. BES-003顆粒水和 ヨードスルホンメチルナトリウム 塩:2% オキサクロモン:30% 〔ハ イエル クロップ サイエ ス〕	コウライシ ハ	適用性 新規	泉ハークタウンGC 東日本G研 那須ナセリー 浜松シサイド GC 関西G研 新中国G研 西日本G研 (7)	〔一年生雑草、多年生広葉雑草〕 ・ 芝生育期 雑草発生前 0.075, 0.1, 0.15g<200-300>/m ² ・ 土壌処理 ・ 展着剤不要 対) インブーLDF 0.03g<200-300>/m ²	実 ・ 継	実) 〔コウライシハ、ノシハ〕一年生雑草] ・ 芝生育期(秋) 雑草発生前 ・ 0.075~0.1g<200-300mL>/m ² ・ 土壌処理 継) ・ 0.15gでの効果、葉害の確認 ・ 年次変動の確認 ・ 多年生広葉雑草に対する効果の 確認 ・ 倍量薬害試験での確認 ・ 連用試験での確認 ・ 実証試験での確認
	ノシハ	適用性 新規	泉ハークタウンGC グランディ那須GC36 東日本G研 那須ナセリー 浜松シサイド GC 関西G研 新中国G研 西日本G研 (8)	〔一年生雑草、多年生広葉雑草〕 ・ 芝生育期 雑草発生前 0.075, 0.1, 0.15g<200-300>/m ² ・ 土壌処理 ・ 展着剤不要 対) インブーLDF 0.03g<200-300>/m ²		
5. DEH-118顆粒水和 イソキサベン 60% フロラスタム 4% 〔タウケミカル日本〕	ケンタッキー ブルーグ ラス	作用性 継続	グランディ那須GC36 東日本G研 (2)	〔連用薬害〕 ・ H17春→H17秋→H18春→H18秋 ・ 雑草発生初期 ・ 0.05g<150-200>/m ² ・ 土壌処理	実 ・ 継	実) 〔コウライシハ、ノシハ、ケンタッキーブルーグラス〕 広葉雑草] ・ 芝生育期(秋)、雑草発生初期(3 葉期まで) 0.03~0.05g<150~200ml>/m ² 茎葉処理 継) ・ 実証試験での確認(コウライシハ、ノシ ハ、ケンタッキーブルーグラス)

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量 mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
6. DH-023 顆粒水和 ベンフルレート 30% [日本曹達]	ケンタッキー ブルーグラス	適用性 継続	泉バーカウング グランドイ那須GC36 東日本G研 那須ナセー (4)	[一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラ主 体)] ・ 芝生育期 雑草発生初期 (スズメノカタビラ3葉期まで) ・ 0.15, 0.2, 0.3g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉処理	実 ・ 継	実) [(ベントグ) 一年生イネ科雑 草] ・ 芝生育期 (秋)、 雑草発生初期 (3 葉期まで) 0.1~0.2g<100~200mL>/m ² 茎葉処理 注) ベントグ) の活性が低い場合 には、葉害を生じることがあ る。 [(ケンタッキーブルーグラス) 一年生イネ科 雑草] ・ 芝生育期 (秋)、 雑草発生初期 (3 葉期まで) 0.15~0.3g<100~200mL>/m ² 茎葉処理 継) ・ 低薬量での効果について年次変 動の確認 (ケンタッキーブルーグラス) ・ 倍量葉害試験での確認 (ベント グ) 雑草、ケンタッキーブルーグラス) ・ 連用試験での確認 (ベントグ) 雑草、 ケンタッキーブルーグラス) ・ 実証試験での確認 (ベントグ) 雑草、 ケンタッキーブルーグラス)
7. DH-024 顆粒水和 フルキサム 50% [日本曹達]	コウライシ バ	作用性 継続	植調研究所 西日本G研 (2)	[連用葉害] ・ H17春→H17秋→H18春→H18秋 ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.3g<200~300>/m ² ・ 土壌処理	実 ・ 継	実) [(コウライシバ、ノシバ) 一年生雑草] ・ 芝生育期 (秋)、雑草発生前 0.15~0.3g<200~300mL>/m ² 土壌処理 継) ・ 倍量葉害試験での確認 ・ 実証試験での確認
	ノシバ	作用性 継続	東日本G研 新中国G研 (2)	[連用葉害] ・ H17春→H17秋→H18春→H18秋 ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.3g<200~300>/m ² ・ 土壌処理		
8. DPX-F6025 顆粒水 和 クロリムロンエチル 25% [丸和ハイケミカル、デュ ポン]	コウライシ バ	適用性 発生前 処理と しては 新規	泉バーカウング 東雲GC 武蔵の杜CC (3)	[広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.02, 0.03, 0.04g<200>/m ² ・ 土壌処理 対) インフーールドF 0.03g<200>/m ²	実 ・ 継	実) ・ [(コウライシバ、ノシバ) 一年生広葉雑 草、ヒメグ) ・ 雑草発生始期~生育初期 0.005~0.01g<200mL>/m ² 茎葉処理 [(コウライシバ) 多年生広葉雑草] ・ 芝生育期~休眠期 雑草生育期 0.02~0.04g<200mL>/m ² 茎葉兼土壌処理 [(コウライシバ) 広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 0.02~0.04g<200mL>/m ² 土壌処理 継) ・ ノシバ) での発生前処理における 効果、葉害の確認 ・ 芝生育期~休眠期処理での効果 の年次変動の確認 ・ 実証試験での確認 ・ 倍量葉害試験での確認
	ノシバ	適用性 新規	東日本G研 新中国G研 門司GC (3)	[広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.02, 0.03, 0.04g<200>/m ² ・ 土壌処理 対) インフーールドF 0.03g<200>/m ²		
	ノシバ	適用性 新規	東日本G研 新中国G研 門司GC (3)	[広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草生育期 (5葉期以下) ・ 0.02, 0.03, 0.04g<200>/m ² ・ 茎葉兼土壌処理 対) インフーールドF 0.03g<200>/m ²		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
9. HCW-002細粒 DBN 0.5% (N, P, K, Mg=12, 8, 7, 3) [保土谷化学工業]	コウライシ ハ	適用性 継続	泉パ-クカシGC 太平洋C美野里C 佐野GC 埼玉スジ7A2002 新中国G研 (5)	[一年生雑草 (マ科雑草を除く)] ・ 芝生育期 雑草発生初期 ・ 15, 20, 25g/m ² ・ 土壌処理 比) カベシ粒2.5 8g/m ²	実 ・ 継	[コウライシハ、ノシハ] 一年生雑草 (マ 科雑草を除く)] ・ 芝生育期 (秋) 雑草発生初期 20~25g/m ² 土壌処理 継) ・ 低薬量での効果の確認 ・ 実証試験での確認 ・ 倍量薬害試験での確認 ・ 連用試験での確認
	ノシハ	適用性 継続	泉パ-クカシGC 太平洋C美野里C 那須ナ-セリ 南長野GC 西日本G研 (5)	[一年生雑草 (マ科雑草を除く)] ・ 芝生育期 雑草発生初期 ・ 15, 20, 25g/m ² ・ 土壌処理 比) カベシ粒2.5 8g/m ²		
10. KUH-062顆粒水和 新規化合物 75% [クミヤイ化学工業、理研 グループ]	コウライシ ハ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[一年生雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.0375, 0.05, 0.075, 0.1g <200-300>/m ² ・ 土壌処理	継	継) 効果、薬害の確認
	コウライシ ハ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[一年生雑草] ・ 芝生育期 雑草発生初期 (ス ミカタビ 3葉期まで) ・ 0.0375, 0.05, 0.075, 0.1g <200-300>/m ² ・ 土壌処理		
	ノシハ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[一年生雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.0375, 0.05, 0.075, 0.1g <200-300>/m ² ・ 土壌処理		
	ノシハ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[一年生雑草] ・ 芝生育期 雑草発生初期 (ス ミカタビ 3葉期まで) ・ 0.0375, 0.05, 0.075, 0.1g <200-300>/m ² ・ 土壌処理		
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[一年生雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.05, 0.075, 0.1g <200-300>/m ² ・ 土壌処理		
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[一年生雑草] ・ 芝生育期 雑草発生初期 (スミカタビ 3葉期まで) ・ 0.05, 0.075, 0.1g <200-300>/m ² ・ 土壌処理 対) ア-ジラン液 0.6mL<200-300>/m ²		
	ノシハ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[一年生雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.05, 0.075, 0.1g <200-300>/m ² ・ 土壌処理		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・維 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草:ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
KUH-062顆粒水和	ノシバ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[一年生雑草] ・ 芝生育期 雑草発生初期 (ス' ヲカヒ' ヲ3葉期まで) ・ 0.05, 0.075, 0.1g <200-300>/m ² ・ 土壌処理 対) アーザン液 0.6mL<200-300>/m ²		
11. NC-622液 グリホサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	ノシバ	作用性 新規	植調研究所 (1)	[雑草全般] ・ 芝生育期 雑草生育期 (草丈15cm~30cm) ・ 12.6, 3倍 (十分量) ・ 茎葉塗布 ・ 展着剤不要	—	・ 適用性に移行可
12. NOJ-120顆粒水和 トリフロキシメスフロキサリウム塩 72% [シンジエンタージャパン]	ハ'ーミュー ダ'グ'ラス	作用性 継続	新中国G研 西日本G研 (2)	[連用薬害] ・ H18春→H18秋→H19春→H19秋 ・ 芝生育期 雑草発生初期 (3葉期まで) ・ 0.006g<150-250>/m ² ・ 茎葉兼土壌処理	実 継	実) ・ [(コウライシバ'、ノシバ'、ハ'ーミューダ'グ'ラス) 一年生雑草] ・ 芝生育期 (秋)、 雑草発生初期~生育期 (5葉期まで) 0.003~0.006g<150~250ml>/m ² 茎葉兼土壌処理 継) ・ 倍量薬害試験、連用試験での確 認 (ハ'ーミューダ'グ'ラス) ・ 倍量薬害試験での確認(コウライシバ'、 ノシバ')
13. RGH-0601粒 ベンディメタリン 0.86% (N:P:K=25:5:10) [理研グリーン]	コウライシ バ	適用性 新規	東日本G研 関西G研 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草 (本科を除く)] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 20, 22.5, 25g/m ² ・ 土壌処理 対) テマックス粒 30g	継	継) 効果、薬害の確認
	ノシバ	適用性 新規	東日本G研 関西G研 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草 (本科を除く)] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 20, 22.5, 25g/m ² ・ 土壌処理 対) テマックス粒 30g		
	コウライシ バ	実証 新規	大宝塚GC (1)	[実証試験] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 22.5g/m ² ・ 土壌処理		
	ノシバ	実証 新規	クリビ'ユー-GC (1)	[実証試験] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 22.5g/m ² ・ 土壌処理		
14. SL-160顆粒水和 フラザスルホン 25% [石原産業]	コウライシ バ	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	[倍量薬害] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.03g<200>/m ² , 0.06g<400>/m ² , 0.12g<800>/m ² ・ 土壌処理	実 継	実) ・ [(コウライシバ') 一年生雑草および多年 生広葉雑草] ・ 芝生育期 (秋) 雑草発生前 0.01~0.03g<200~300ml>/m ²

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
SL-160顆粒水和	ノシバ	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	[倍量薬害] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.03g<200>/m ² , 0.06g<400>/m ² , 0.12g<800>/m ² ・ 土壌処理		雑草発生前 0.01~0.03g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉兼土壌処理 [(ノシバ) 一年生雑草] ・ 芝生育期 (秋) 雑草発生前 0.01~0.03g<200~300mL>/m ² 雑草発生前 0.01~0.03g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉兼土壌処理 [(ノシバ) 多年生広葉] ・ 芝生育期 (秋) 雑草発生前 0.02~0.03g<100~200mL>/m ² 茎葉処理
	コウライシバ	適用性 継続	東日本G研 リバー富士CC 関西G研 新中国G研 (4)	[一年生雑草及び多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.01, 0.02, 0.03g <200-300>/m ² ・ 土壌処理		雑草発生前 0.01~0.03g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉兼土壌処理 [(ノシバ) 多年生広葉] ・ 芝生育期 (秋) 雑草発生前 0.02~0.03g<100~200mL>/m ² 茎葉処理
	コウライシバ	適用性 継続	リバー富士CC <関西G研> <宇都宮大学 H17> (2)	[一年生雑草及び多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.01, 0.015, 0.02, 0.03g <100-200>/m ² ・ 茎葉処理 ・ 展着剤を加用する 対) シバグン水和 0.025g<100-200>/m ²		雑草発生前 0.01~0.03g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉兼土壌処理 [(ノシバ) 一年生雑草および多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 (秋) 雑草発生前 0.01~0.02g<100~200mL>/m ² 茎葉処理
	ノシバ	適用性 継続	東日本G研 関西G研 新中国G研 門司GC (4)	[一年生雑草及び多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.01, 0.02, 0.03g <200-300>/m ² 土壌処理		雑草発生前 0.01~0.03g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉兼土壌処理 [(ノシバ) 一年生雑草および多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 (秋) 雑草発生前 0.01~0.02g<100~200mL>/m ² 茎葉処理
	ノシバ	適用性 継続	関西G研 門司GC <宇都宮大学 H17> (2)	[一年生雑草及び多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.01, 0.015, 0.02, 0.03g <100-200>/m ² ・ 茎葉処理 ・ 展着剤を加用する 対) シバグン水和 0.025g<100-200>/m ²		雑草発生前 0.01~0.03g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉兼土壌処理 [(ノシバ) 一年生雑草および多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 (秋) 雑草発生前 0.01~0.02g<100~200mL>/m ² 茎葉処理
	バーミューダグラス	適用性 新規	東雲GC 浜松・サイド GC 関西G研 花屋敷GC (4)	[一年生雑草及び多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.01, 0.02, 0.03g <200-300>/m ² ・ 土壌処理		雑草発生前 0.01~0.03g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉兼土壌処理 [(ノシバ) 一年生雑草および多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 (秋) 雑草発生前 0.01~0.02g<100~200mL>/m ² 茎葉処理
	バーミューダグラス	適用性 新規	東雲GC 浜松・サイド GC 関西G研 花屋敷GC (4)	[一年生雑草及び多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.01, 0.015, 0.02, 0.03g <100-200>/m ² ・ 茎葉処理 ・ 展着剤を加用する		雑草発生前 0.01~0.03g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉兼土壌処理 [(ノシバ) 一年生雑草および多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 (秋) 雑草発生前 0.01~0.02g<100~200mL>/m ² 茎葉処理
	15. SL-236L乳 フロアジ オブ P 17.5% [石原産業]	コウライシバ 作用性 新規	新中国G研 西日本G研 (2)	[倍量薬害] ・ コウライシバ 休眠期 ・ 0.3mL<100>/m ² , 0.6mL<200>/m ² , 1.2mL<400>/m ² ・ 茎葉処理	実・ 継	実) [(コウライシバ、ノシバ) ベントグラス] ・ 芝休眠直前~休眠期 雑草生育期 0.15~0.3mL<100~150mL>/m ² 茎葉処理

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作 物 名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量 mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
SL-236L乳 [委託者]	ノシバ	作用性 新規	東日本G研 関西G研 (2)	[倍量薬害] ・ ノシバ 休眠期 ・ 0.3mL<100>/m ² , 0.6mL<200>/m ² , 1.2mL<400>/m ² ・ 茎葉処理	継	・ 実証試験での確認
16. 粉状MCP水溶 MCPAナトリウム塩一水化 物 70% [石原産業]	コウライシ バ	作用性 新規	太平洋C美野里C 新中国G研 (2)	[倍量薬害] ・ 芝生育期 雑草発生初期 ・ 0.8g<200>/m ² , 1.6g<400>/m ² , 2.4g<800>/m ² ・ 茎葉処理 ・ 展着剤を加用する	継	(継) 効果、薬害の確認
	ノシバ	作用性 新規	グランドイ那須GC36 新中国G研 (2)	[倍量薬害] ・ 芝生育期 雑草発生初期 ・ 0.8g<200>/m ² , 1.6g<400>/m ² , 2.4g<800>/m ² ・ 茎葉処理 ・ 展着剤を加用する		
	コウライシ バ	適用性 新規	泉パークタウンGC 東日本G研 那須ナセリー リハ-富士CC <関西G研> 新中国G研 (6)	[広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草発生初期 ・ 0.4, 0.6, 0.8g<100-200>/m ² ・ 茎葉処理 ・ 展着剤を加用する 対) MCP液 0.5mL<100-200>/m ²		
	ノシバ	適用性 新規	グランドイ那須GC36 東日本G研 リハ-富士CC 南長野GC 関西G研 新中国G研 (6)	[広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草発生初期 ・ 0.4, 0.6, 0.8g<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤を加用する 対) MCP液 0.5mL<100-200>/m ²		

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作 物 名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量 mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
1. SYJ-20170アール バクロブトラグール 21.5% [シンジェンタ ジャパン]	ベントグ ラス	作用性 新規	植調研究所 宇都宮大学 (2)	[スズメノカタビラの発生密度低減] ・ 芝生育期 スズメノカタビラ発生前、 発生初期 (2葉期程度) および 生育期 (4~5葉期程度) ・ 0.02, 0.04, 0.08, 0.12mL <100-200>/m ² ・ 茎葉兼土壌処理	継	(継) 効果、薬害の確認
	ベントグ ラス	適用性 新規	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[スズメノカタビラの発生密度低減] ・ 芝生育期 スズメノカタビラ発生初 期 (2葉期程度) および生育期 (4~5葉期程度) ・ 0.04, 0.06, 0.08mL <100-200>/m ² ・ 茎葉兼土壌処理		